

ともに学び、ともに向上しよう

秋田県自治研修所長 金田 早苗

県と市町村の機能合体による合同研修は、平成23年度から本格実施となり、新規採用職員研修をはじめ、3年目研修、能力開発研修の36講座で、県と市町村職員等合わせて約1,900名の皆さんが受講されました。

特に今年度の能力開発研修は、県と市町村との協議会で研修カリキュラムを大幅に見直して、新規の科目を増やしたことや、大館、北秋田、大仙、横手の各市で地区別に開催したこともあり、市町村職員の参加が前年度に比べ大幅に増加しました。

1泊2日の研修では、グループワークで互いに刺激を受けあうとともに、懇親会などを活用して講師や他の参加者と交流し、人的ネットワークを築けることも魅力のひとつです。

年度初めに各市町村を訪問してお話を伺いましたが、3年間で全職員が研修を受けるようにルール化したり、業務に関連のある研修を指定して受けさせたりというように、市町村は職員の能力向上に積極的に合同研修を活用しているようです。

県職員の場合は23歳から34歳までは年1回の受講を義務づけていますが、それ以外の職員は、自主的な応募研修となっています。仕事に役立つ知識やスキルの習得による能力向上はもちろんのこと、住民と接する機会の多い市町村職員とともに学ぶことは、県職員にとって、新しい視点を得られる良い機会になる

とともに、県と市町村との協働の地域づくりを加速していく上でもプラスになるでしょう。

市町村職員の参加が大きく伸びたのに対し、県職員の応募研修は前年度より減少しており、残念に感じています。今年度は震災対応で忙しかったこともあり、「受けてみたい研修があるけれど、手をあげづらい」という声もあったようです。上司の皆さんは、部下職員が研修に応募しやすいよう受講を促す声かけをして部下の背中を押してください。

また、部下育成の観点からも受講に向けた適切なアドバイスをお願いします。

上司も部下も、自ら積極的に外に出て学び、触発され、互いに高めうことができる組織から、力強い新しい発想がでてくるのではないのでしょうか。



能力開発研修「折衝力・交渉力向上」

グループワークのようす(平成23年9月21日～22日)

新規科目 NPO体験研修

●肌で感じる体験型研修

H23年度は、職員が自発的に受講する応募型の能力開発研修に、6つの新規科目を取り入れました。今回はその中からNPO体験研修についてご紹介します。

NPO体験はH22年度から実施した特別研修「意識・知識・見識」実践研修での提案が事業化された研修です。社会活動やNPOに関する知識を深めて、NPOと行政の協働の必要性を理解するために、職員が特色の異なる5つのNPOの活動に参加しました。研修期間は3日間です。受講生に大変好評の科目で来年度も継続することとしています。興味のある方は是非、参加して「協働」を体感してください。

【新規科目】

- ①発想力・創造力向上
- ②企画立案能力向上
- ③住民満足とコミュニケーション
- ④問題解決力向上
- ⑤意思決定能力向上
- ⑥NPO体験

【NPO体験研修の受け入れ先】

研修先	主な研修内容
秋田パドラーズ	カヌーによるクリーンアップ
岩崎NPO	まちづくり記念式典企画
「浦城」の歴史を伝える会	古城趾フォーラム運営
子育て応援Seed	親子イベント運営
まちおこし結っこ	味噌作り体験イベント運営

秋田パドラーズの研修に参加した

がん対策室主査 滝本法明さんの体験レポートから

カヌーイストはこんなにもカッコイイのか！

秋田パドラーズのメンバーのほとんどは、私(41歳)より年上ですが、第一印象は芯の通った「ちょいわるオヤジ」。川では照り返しを防ぐサングラスをかけカヌーを自由自在にあやつり、陸では大きなカヌートレーラーをとりまわし、イベントでは子ども達や初心者にやさしく秋田の自然の素晴らしさと怖さ、雄物川流域のゴミの現状を教えていました。

イベントは、主催者自らが本当に楽しんでいて、これがNPO活動の本来の姿だと思いました。研修前、私は「NPO活動ならクリーンアップだけ、やればいいのか」と思っていました。しかし、秋田パドラーズの成り立ちを聞いて、今のかたちになったことに納得しました。当初、メンバーが「川のクリーンアップをしましょう」と呼びかけたけれどなかなか人は集まらない。アプローチを変えて、まず「カヌーをやりませんか」と誘い、そのカヌー体験者に清掃も呼びかけし、大勢の人が川のクリーンアップ活動をしてくれるようになったということでした。

行政も住民の活力を引き出しながら継続的に活動しようとするとき、このような視点やアプローチがあってもいいと感じました。



受講生の滝本さん(右から3人目)と、鷹巣技術専門校の佐藤信勝さん(左から2人目)



雄物川中州でのクリーンアップ

地 区 別 開 催 研 修

本年度から、より多くの皆さんが参加しやすいように地区別（県北・中央・県南）に開催する研修を実施しています。科目は「実践文章力」と「リスク認識力向上」です。

「実践文章力」

今まで気づけなかった文章作成のクセがよ〜くわかります！

この研修を受ければ、あなたも読みやすい文章が書けるようになります

●地区別による研修開催は大好評

「実践文章力」という名のとおり、1日みっちり“わかりやすい文章の書き方”について、その技術を学び、演習を通して実践しました。受講生の方からは、研修内容はもちろんのこと、会場の近さ、参加のしやすさから、とても好評でした。

来年度も引きつづき、地区別で開催することにしておりますので、今年参加できなかった皆さんも、ぜひご検討ください。

●文章作成は読む人の立場にたって

公文書について、日ごろ「読みやすさ」という視点で書いていますか？ 県民・住民むけに作成するチラシやパンフレットなど“読む人”をもっと常日ごろから、意識して書くことが必要ではないでしょうか？

立派な文章も、相手に読んでもらい、理解してもらわなければ、全く無駄になってしまいます。

この研修では、文章を科学的(?)に分析するので、自分の文章作成のクセがよ〜くわかります。

このクセを意識して、気をつけながら文章を書くように心がければ、あなたも「読みやすい」わかりやすい文章が自然と書けるようになります。

※間違っても、行政文書を作成する上での制限やルールの説明ではありませんので、ご注意ください。

●自分の文章を添削してもらえます

受講生のみなさんには、事前課題として、600字程度の文章を書いてもらいます。

それを講師が事前にチェックして、研修の中で、皆さんの文章のクセに気づかせてくれます。

読む人がわかりやすい文章とは？ 字体は？ 体裁は？ 全体の配置は？等々

講師は出版・編集の経験のある方です。文章のプロとして、身に付けた技術をできる限り教えてもらえます。

●最後に

この文章について、研修の成果がみられないのは、決して講師の教え方に問題があるわけではないことに、誤解のないように！（「ない」はあまり重ねてはいけないのですが…。〈二重・三重否定は使わないことを研修で学ぶ〉）



県南会場で指導する村瀬順講師

平成23年11月14日

横手市交流センターY2（わいわい）プラザ

「リスク認識力向上」

日常業務に潜むリスクに「気づく」力を高める！

危機管理時のマスコミ対応のポイントも！

●研修の目的

公務の現場も日々の業務に追われ、また、過去からの習慣に流され、問題のある行動や状況を感じ取る感度が鈍くなりがちです。この研修は、日常業務に潜むリスクに「気づく」力を高め、リスクを軽減する方法を学ぶことを目的に、平成20年度から実施しています。

●実施状況

平成23年度の実施状況は次のとおりです。

実施月日	会場	受講者数
11月28日 (月)	大仙市仙北ふれあい文化センター(大仙市・県南)	64人
11月29日 (火)	秋田県自治研修所(潟上市・中央)	56人
11月30日 (水)	大館市立中央公民館(大館市・県北)	52人

●講師

講師は、㈱インターリスク総研の緒方順一氏。現在、大手損害保険会社グループでリスクマネジメント事業を担う会社のコンサルティング部門の部長です。リスクマネジメントプログラムの設計や運営、研修・セミナーの企画や運営に長年携わり、豊富な知識と現場経験を有しています。

講師の説明は、内容が論理的に整理されていてとても分かりやすく、また発音が明瞭で聞きやすいこともあり、受講者にはとても好評でした。

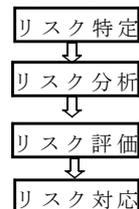
●研修の内容

研修は、大人数にもかかわらず、演習(個人ワーク・ペアワーク)を交えて進められました。

はじめに、「リスクとは何か」「リスクマネジメントの考え方」「リスクコミュニケーション」などリスクマネジメントの概説を、民間企業や自治体で実際に発生した事件・事故を例に分かりやすく説明があり、次に、後記のリスクマネ

ジメントの進め方を詳しく学び、リスクへの対応策までを演習で検討しました。

リスクマネジメントのプロセス



研修の中で、架空の自治体における職員の勤務状況を題材としたDVDを視聴し、職場に潜むリスクを演習で考えましたが、職場には思ったより多くのリスクがあることが分かりました。

さらに、リスク認識力を向上させる日常業務における留意点なども教えていただき、内容の濃い研修となりました。

●受講者の感想

受講者の感想の主なものは次のとおりです。

- ・「予兆に気づく力」によってリスクを少しでも小さくできることが分かった。
- ・リスクマネジメントの要である「気づき」と「動き」を日常業務に活用したい。
- ・リスクコミュニケーションでリスクに強い組織をつくりたい。
- ・危機管理時におけるマスコミ対応は参考になった。

●まとめ

来年度も3地区(県北・中央・県南)で開催することにしております。

「リスクマネジメント」の基礎を学びたい方は、是非受講してみてください。



県北会場の大館市立中央公民館



まめ知識

条文の項番号

法令の条文で、“条”と“号”の漢数字の間に挟まれて、アラビア数字が“項”にあるのを、調和がとれていないと感じたことはありませんか。

戦前に作られた法令には項番号がなく、条文の中に改行があれば、段落が分かれてそこから新しい項になっていました。

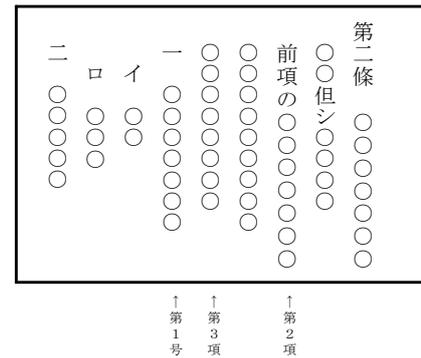
この方法では改行以外に目印がないので、項が変わったことは見分けづらい。まして、項数が多くなり、例えば第10項といっても、どこにあるのか、判別が容易でない。

戦後、憲法で国民主権になったことから、一般国民でも分かるように、昭和23年末ごろから、第2項以下にアラビア数字で番号を振るようになりました。

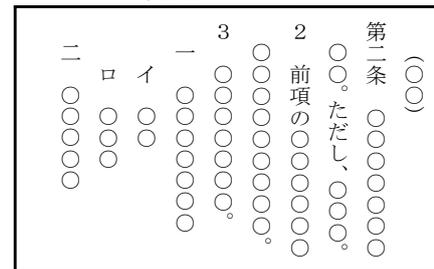
また、() 書きの条文見出しも同時期に付けるようになったものです。

「法制執務基礎」研修から一部引用

戦前の形式例



現在の形式例



▽編集後記

今回は、新規科目と地区別開催研修についてご紹介しました。

中でもNPO体験研修は、ほかならぬ当研修所の研修から生まれた「赤ちゃん研修」です。今後、みんなの力で大きく育てていきたいので、よろしくお願ひします。

来年度も魅力ある研修をご案内します。

みなさんの受講をお待ちしています！

次回は3月発行予定です